



内田 勇 議員

木次線の利用促進についての対策は

町長 利用促進の強化が喫緊の課題である



問 JR西日本が三江線の廃止を検討していることが発表されたが、木次線の利用の現状と課題は、

答 木次線は、穴道駅から備後落合駅に至る81・9キロで18駅がある。

奥出雲町内には、出雲八代駅から三井野原駅までの7駅があり、38・2キロで木次線全体の46・6%を占めている。

平成26年度の利用状況は、木次線全体で1日平均乗車数は76人である。

駅別では出雲八代駅23人、出雲三成駅99人、亀宮駅28人、出雲横田駅115人、八川駅0人、出雲坂根駅1人、三井野原駅3人で合計で260人である。

1日1キロ当たりの輸送密度は、昭和62年度の

663人から、平成26年度は218人に減少している。観光利用も含めた利用促進の強化が喫緊の課題である。

問 前年比2割の乗車数の減少は、三江線の問題どころか明日は我が身という切実な問題であり、日頃からみんなで木次線を利用していくことへの対策と支援の状況は、

答 松江市、雲南市、奥出雲町の三市一町で構成する木次線強化促進協議会では、県内の幼稚園、保育所、小学校及び中学校の児童生徒が遠足等で利用した場合の費用助成を行っている。

平成10年4月から運行のトロッコ列車、奥出雲おろち号の運行経費の一部を負担している。

横田高校生を対象として、通学定期券代金の1/3を助成しているが、木次線の利用促進を強化するため、沿線周辺の魅力を発信するホームページの立ち上げや、平成28年10月に予定している木

次線開通100周年記念との連携、平成29年から運行予定のトワイライト・エクスプレス瑞風の穴道駅停車を活用した木次線への誘客などを考えている。

問 人気のあるトロッコ列車の運行状況と課題は、

答 運行期間は、毎年4月始めから紅葉シーズンが終わる11月下旬までの金・土・日・祝日を基本に1日1往復で運行され、夏休みと紅葉シーズンの10月下旬から11月下旬まで毎日運行されている。

平成27年の利用客数は、約1万3千700人で前年比5%増加しているが、木次方面への利用客が少ないことだ。また車両の老朽化が進み、2年程度で更新するかどうか大きな課題である。

問 障がい者を抱える両親や家族も高齢化している。

家族に少しでも安心してもらえて、障がい者も自宅を離れることで自立を促すことができるグループホームを横田地域に



木次線を走る奥出雲おろち号

創設を、

答 障がいのある人の自立支援の観点から、できるだけ施設から地域への生活移行を推進するために、平成29年度末までにグループホームを横田地域に整備したい。

問 障がい者が農作業の担い手となる「農福連携」が全国的に広がっている。農産物の生産、加工、販売を手がける6次産業化の分野でも、障がい者を積極的に雇用しているが、

答 障がい者の自立をめざし、就労の場の確保や、工賃の水準を引き上げることは必要であり、福祉の課題と、高齢化や後継者不足という農業の課題を解決する「農福連携」に期待が寄せられている。